香川大学教育学部
附属教育実践総合センターニュース

No. ２２　　平成１７年８月　３日発行

目　次

特集　平成17年度教育実践総合センター事業について ---------- 1
着任・退任教員ご挨拶 ---------- 4
第89回附属坂出小学校教育研究発表会　6
附属高松中学校研究発表会 ---------- 7
教育実践集中講座 ---------- 8
教育実践総合センター研究会報告 ---------- 9
寄贈図書 ---------- 10
センター活動報 ---------- 11

特　集　平成17年度教育実践総合センター事業について

センター長　　西原　浩

本年４月より教育実践総合センター長に就任しました。前センター長同様、よろしくお願いします。

７月に開催された管理委員会で、平成１７年度のセンター事業計画が認められました。センター事業の主要な１つの柱である研究プロジェクトは、３年目を迎える「e-Learningに関する研究」と新規に開始する「教師教育の在り方に関する研究」、「香川県における道徳教育の充実に関する研究」、「社会的スキルに関する研究」の４本で行うことになりました。「教師教育の在り方に関する研究」は県教育センターとの共同研究として実施することになりました。いずれのプロジェクトも教員養成・研修や教育実践、教育臨床に関わって重要な課題であります。学部、附属学校、県教育委員会、県研究センター、公立学校の先生方の協力を得て進めて参りたいと存じますので、よろしくお願いします。

本年度は客員教員（客員教授）として、高松市立桜町中学校教頭の宮脇先生には引き続いて、香川県教育委員会義務教育課主任指導主事の伊井先生には新しく就任していただいております。すでに６月に第１回教育実践集中講座を担当していただきました。学校生活の様々な場面における教師の対応など、具体的な指導法に関わる講座は教員を目指す学生にとって極めて有意義なものになると思われます。

６月に中教審のワーキンググループから報告されましたが、教員の専門職大学院（教職大学院）が平成１９年４月に開校する方向で検討されているようです。教職大学院の設置は我が国のこれからの教員養成や教師教育、そして同時に本教育学部や教育学研究科の在り方そのものにも大きな影響を与えることが予想されます。このテーマに関係して第１回のセンター研究会が開かれましたが、報告や討議の中で様々な課題があることが示されました。センターとしても今後の検討を見守っていきたいと考えています。学部の中期計画にも掲げられている「学部附属共同研究機構」の設置に向けての検討も始まることになるでしょう。センターとしてどのように関わっていけるのか考えていきたいと思います。今後、センターとして中期計画に掲げられた事項を実現し、さらに長期的な構想を視野に入れ、地域の教育・研究ニーズに即した事業を展開していきたいと考えています。

課題山積の中、先生方のご協力・ご支援を得ながら、今年度の事業を進めたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

平成１７年度　教育実践総合センター事業

Ⅰ　研究プロジェクト

1　e-Learning に関する研究プロジェクト（３年目）
2　教師教育の在り方に関する研究プロジェクト
3　香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト
4　社会的スキルに関する研究プロジェクト

Ⅱ　指導プロジェクト

1　教員養成
（１）「教育実践演習」「臨床援助の実際」「教育実践基礎演習（ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事業）」の担当
（２）教育実践集中講座の担当
（３）情報教育関連の授業開講　・教育工学　　・情報メディアの活用
2　教員研修
（１）ＳＣＳ利用研究及び遠隔共同講義への参加
「授業実践研究」、「情報とメディア研究」、「教育臨床」
（２）マルチメディア研究会の開催
（３）軽度発達障害研究会の開催
3　教育相談
（１）教師のための相談活動（学習指導、生徒指導等）
（２）教育相談活動

Ⅲ　教材・資料の収集・管理・共同利用

1　研究資料（他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物）、教材（教科書及び指導書）等の収集・管理
2　教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
3　遠隔教育システムの有効利用のための整備
4　学習コンテンツの収集

Ⅳ　研究活動の報告等

1　「香川大学教育実践総合研究」の編集
2　教育実践集中講座ノートの発行
3　フレンドシップ事業報告書の発行

Ⅴ　広報活動

1　インターネットのサイト（ホームページ）の更新・管理
2　センターニュース（年３回程度）
3　教師教育用映像情報のＶＯＤ配信サービス
4　パンフレットの改訂・発行

Ⅵ　講演会・研究会等の開催

1　公開講演会
2　教育実践総合センター研究会
3　その他

Ⅶ　関係機関との連携

1　研究・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
2　その他地域の各関係機関との連携
　　1　香川県教育委員会教員研修への協力
　　2　香川県教育センター及び高松市教育文化研究所への研究協力

平成１７年度　教育実践総合センター研究プロジェクト概要

１　e-Learningに関する研究プロジェクト

大学のキャンパスＬＡＮや香川県の教育用通信ネットを用いて、ＩＴの教育的活用である e-Learning を試行することを目標においた。その基礎的研究として、1) e-Learning 用教材コンテンツの開発と流通に関する条件を抽出すること。2) e-Learning 用ソフトウェアの評価と改善に関する提案を行うこと。3) e-Learning を実施する際の問題点の抽出と改善策の検討を行うこと、などを具体的な事項として考えている。

２　教師教育の在り方に関する研究プロジェクト

教員養成そのものの問題に加えて，県教委と連携した教員研修や教員の専門職大学院等，これからの教師教育をめぐって教育学部が検討し取り組んでいかねばならない問題が山積しています。今年度は香川大学研修（香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携事業の一環として，教職１０年経験者研修の一部について今年度と来年度試行的に実施される）等，とくに教員研修の問題を中心に据えた研究を行い，次年度以降，教員の専門職大学院の問題や教員養成カリキュラムの問題も視野にいれて研究を展開する予定です。

３　香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト

昨今、青少年による様々な事件や生徒指導上の問題行動が起こるたびに、心の教育の充実が叫ばれている。香川県においても、本年度より「道徳の日」が設定されたり、「いのちの先生」の派遣事業が行われたりするなど、道徳教育の充実に向けた実践が推進されている。しかし、これらの実践に関してはまだ始まったばかりであり、学校現場においても、その具体化に当たって模索の段階にある。

そこで、表記のような研究プロジェクトを設け、全国的な実践研究も視野に入れ、その推進のための調査研究、及び具体化に向けたプランづくり等、香川県における道徳教育の充実に資する研究を推進するものである。

４　社会的スキルに関する研究プロジェクト

これまで、「社会的スキル訓練の教育実践への活用に関する研究プロジェクト」等を通じて集団社会的スキル訓練に関する実践的研究を積み重ねてきました。

現在、これまでの実践的研究を整理して、今後の課題を見極めようとしています。そういう意味から、本年度の研究プロジェクトは、最初はテーマを限定せずに広く「社会的スキルに関する研究プロジェクト」としました。

小学校、中学校における社会的スキル（社会的スキル訓練）に関して、どういったことを課題に研究を進めるのかは、これまでの実践的研究の整理、この領域に興味・関心を有し、何らかの実践を積み重ねてこられた先生方との話し合いを通じて決めたいと思っています。例えば、他の予防・開発的教育相談（ピア・サポート等）との差異の検討や社会的スキルの発達的側面の検討などが考えられますが、先生方からご意見をうかがい、実りの多い研究プロジェクトとなるような課題を設定するところから始めたいと思います。

着任・退任教員ご挨拶

企画推進委員就任にあたっての現実と夢想

櫻井　佳樹

この度、企画推進委員に就任致しました。お役に立てるかどうか心許ない限りですが、よろしくお願い致します。日頃、「疑い」や「批判」を旨として教育研究しております手前、奥の院に蟄居している方が、性に合っている訳ですが、何の因果か、こういうことになりました。「哲学者は社会から余りに遠く、社交界の人間は余りに近すぎます」（ルソー『新エロイーズ（二）』）。社会は急速に変わろうとしています。急速な濁流に呑み込まれ右往左往していますが、その流れ自体を形成しているのも私たちに他なりません。こうした流れの行き着く先を観察したい、どこからどこへ向かうのか、静かにゆったりと時間をかけて思索したい。自分の眼と耳を使って観察し、自分の頭を使って考えたい。大学はそんな場所であって欲しいし、あるべきだと考える昨今です。

企画推進委員退任の挨拶

柳澤　良明

２年間、教育実践総合センターの企画推進委員の仕事をさせていただきました。任期中、おもに学校評価プロジェクトの代表として、研究プロジェクトに参加できたことは私にとりまして、とても良い勉強の機会になりました。学内の先生方だけでなく、附属の先生、また香川県教育センターの先生方、さらに小学校、中学校の現職の校長先生方にも委員として加わっていただき、貴重なアンケート調査を実施することができました。アンケート調査の構想段階から実際の調査票づくりの段階にかけて、毎回、夜遅くまで研究討議を重ね、予想以上に時間を費やしましたが、県内の全公立小中学校に調査票を送付し、貴重な結果を得ることができました。まだ詳細な分析は残っていますが、学校評価に関する校長先生方の考え方を探る、という重要なテーマに取り組むことができました。企画推進委員として今回の研究プロジェクトに参加できたことを心より感謝しております。

「さわやかな時間　～*教師の卵たちとの出会い*～」

伊井　道弥（香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事
教育実践総合センター客員教授）

１　はじめに

中学校現場で勤務している頃には、全く縁がなかった我が母校の香川大学ですが、県教委に入ってから、様々な事業の関係で大学に出入りすることが多くなりました。しかしながら、よもや今回のような立場で学生と接することになろうとは、夢にも思いませんでした。

２　講義について

私の講義は、もう一人の客員教授である宮脇教頭先生が、学校現場での様々なノウハウを指導されているので、同じような傾向にならないよう、現在の勤務経験を生かし、文部科学省や県の動向を踏まえ、教育行政としての側面から学校教育を実践的に考えてもらうように計画しました。特に、教師を目指す意欲に満ちた学生たちの多様な考えをできるだけ引き出していけるような演習を中心に授業を進めていきたいと考えています。

３　６月の講義を終えて

６月、期待と不安の中で講義が始まりました。少人数ながら熱心に参加してくれている学生の向学意欲には、感心を超えて、さわやかな感動さえ感じています。最近の大学

生は・・などという言葉をどこかで聞いたような気がしますが、少なくとも、この学生たちにはまったく当てはまらないと思います。

講義の中で与えたテーマについても、こちらが予想していた以上の学生らしい独創性に満ちた考えが次々と湧き出ており、「このアイディアは今すぐ現場で使えるよ。」などと言いながら、私自身も勉強しています。

4　終わりに

この1年は、学生たちとのさわやかな時間を楽しみながら、教育についての論議を深めていきたいと思っています。そして、近い将来、学校現場でこの学生たちと出会うことができることを楽しみにしています。

着任のご挨拶　　附属高松小学校　校長　有馬 道久

本年4月に着任して4ヶ月が過ぎようとしています。初めてのことばかりで戸惑うことの多い毎日でしたが，子どもたちからもらう元気を糧にどうにか務めています。全校朝会，職員会，現教，PTA役員会など多くの会合での挨拶はあいかわらず苦手ですが，戸惑いの原因はそれだけではないようです。最近ようやく気づいたのは，これらの行事にはそれぞれ脚本があって，先生方や子どもたちはそれにしたがって自分の役を演じているらしいこと，しかも，すべてが脚本通りではなく時にはアドリブも必要なことなどです。アドリブはもちろんできませんが，脚本もほとんどわかっていない私は一人落ち着かないというわけです。これはまさに私の研究テーマである潜在的カリキュラムの習得過程だといえます。自らを被験者にしながら研究を進めるという新たな楽しみが出て参りました。

このような機会をいただいたことに感謝しながら，精一杯努力していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

着任のご挨拶　　附属養護学校　校長　田中　健二

平成 17 年4月1日より、附属養護学校長を勤めております。着任してもっとも驚きましたことは、挨拶回り先の多さです。養護学校の教育が県・市町の教育関係者のみならず、地域の方々や、福祉に関わる方々など多くの人々に支えられていることを実感いたしました。着任以来数ヶ月で生徒たち全員の名前と顔が一致するようになりました。小規模校のありがたみを感じております。もとより、学校経営、学校管理に関しましては素人でございますが、生徒たちのために、学校のために精一杯がんばってまいりたいと存じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

力ある附属学校に　　附属坂出中学校　副校長　環　　修

昭和63年から平成13年までは教諭として、そして今回は副校長として再びお世話になることになりました。4年間附属を離れている間に、大学の法人化など附属を取り巻く教育環境が大きく変化し、附属学校としての役割やその実績が厳しく評価されるようになってきました。附属学校の役割である、先進的な教育研究、教育実習生の育成、そして日々通っている子どもたちの教育の充実に努力していくことはもちろんでありますが、さらに、公立学校との連携を図っていく必要性を強く感じています。公立学校の先生方にとって分かりやすい研究提案や、教科指導の拠点校としての役割を持ち、附属学校を身近に感じ、魅力あるものにしていくことが大切だと思っています。

微力ではありますが、長い間附属でお世話になった恩返しの気持ちで、全職員と力を合わせ、附属学校の発展のために精進してまいります。どうぞよろしくお願いします。

第８９回　附属坂出小学校教育研究発表会

５月２６日・２７日に開催された第８９回教育研究発表会は，県内外から２日間で延べ７００人を超える参会者をお迎えし，盛会裏に終えることができました。

今回の研究発表会では，『２１世紀を切り拓く「確かな学力」の向上　－「思考力」を育成する授業コーディネート－』を研究主題に掲げ，『子どもの「思考力」を育成するのは，「教材開発」と「子どもの反応の組織化」における授業コーディネート力である！』という本校の考え，及びその取り組みについて提案しました。また，今回，授業協議をよりよいものに改善していくために，そのいくつかに「参加型協議会」を取り入れてみました。それは，まず授業を参観しながら，気付いたことや意見を付箋紙に記入し，それを黒板に貼り，眺めたり，近くの参会者・授業者と意見交流したりします。そして，司会は論点を絞り，それぞれの立場の意見を詳しく聞いたり，グループで話し合ってもらったりしながら，協議を深めていくのです。この協議会は好評だったようで，参会者の先生方のアンケートにも，「多くの人の意見を知ることができた。」「本校の校内研修にも取り入れてみたい。」などの感想が，数多く寄せられました。

１日目の午後は，都留文科大学の鶴田清司先生，兵庫教育大学の佐藤真先生，大阪市立大学の木原俊行先生をゲストにお招きし，本校研究部長の森山を交えて『「思考力」を育成する授業コーディネート』をテーマに，シンポジウムを行いました。２日目の午後は，日本女子大学人間社会学部教授の吉崎静夫先生にご講演をいただきました。

この教育研究発表会を通して，学習指導レベルでの「授業コーディネート」について，「教材」の２つの条件と「反応の組織化」の３つの支援等，その視点を確立することができました。今後は，交流の際に子ども自身が行える「反応の組織化」や，それらを身に付けさせる教師の支援について，さらに研究を深めていきたいと考えています。

研究発表会に際してのご指導，ご協力に対して深く感謝申し上げます。

〈教材開発（算数）〉

〈参加型協議会（理科）〉

附属高松中学校研究発表会　（６月10日開催）

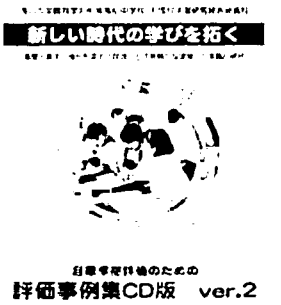
研究主題
「　新しい学びを拓く
　－基礎・基本の強化を図る
「評価」と「発展的な学習」の実践的研究－　」

Ⅰ　本校の研究主題について
　目標準拠評価の実践から明らかになった成果と課題から，より精度の高い評価の運用の方法を探り，基礎･基本の習得の強化を図る学習を提案した。また，評価結果を活用し，「さらに伸びることができる生徒」の学習場として平成18年度から使用される教科書でも取り扱われる「発展的な学習」の実践の在り方について，「広げる発展的な学習」「深める発展的な学習」という独自の学習スタイルの提案を行った。

Ⅱ　本校の研究内容について
①　基礎・基本の強化を図る評価
　平成16年度は，目標準拠評価の履歴が，初めて複数年単位で蓄積され，実践から評価を研究することが可能となった。これまでの実践において現れた課題を解決するための方策として，これまでの学習の指導を見直し，連動して具体的な評価規準や，評価方法を修正することを行った。
②　基礎・基本の強化を図る発展的な学習
　本校の発展的な学習の目標は以下のとおりとした。

必修基礎教科における「発展的な学習」の効的な実施によって，基礎・基本の強化を図る。

発展的な学習では，高度な内容や技能に取り組んだり，他教科や生活とリンクする課題に取り組んだりすることによって，自分の持つ基礎・基本の強化することが目標である。この学習では，授業で扱う題材に設定された高い次元の課題に対して，チャレンジと失敗を繰り返しながら，自分の基礎・基本のレベルを認識し，強化する。特に本校ではこれを，「広げる」「深める」という２方向の学習に分類し，実践授業の提案を行った。



継続研究である評価事例集CD-ROM　Ver2

発展的な学習として高松に伝わる古式泳法「水任流」を学ぶ生徒

脳科学の視点から発展的な学習の必要性をご講演くださった早稲田大学教授安彦忠彦先生

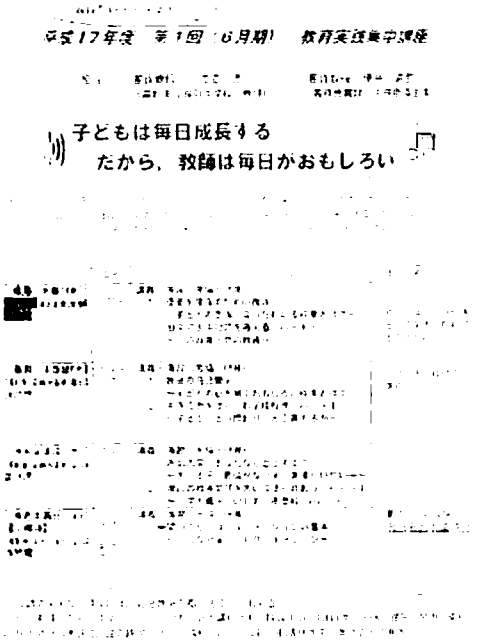
平成17年度第１回教育実践集中講座

客員教授　　宮脇　啓

〔テーマ設定〕

今年で客員教授をさせていただいて３年目になる。その間も，佐世保の事件に代表されるように子どもたちの心は大人には理解できないような回路になっていきつつあるのかもしれない。そして，それは被害者・加害者を問わずもっと大きな広がりとなる危惧もある。

そこで，私は様々な要因が複雑に絡み合っている中で「コミュニケーション能力の不足」を原因の一つとして捉え，その育成をテーマに講座を進めることにした。



〔講座より〕

「『私の好きな時間』をテーマに１分間で話してください。」学生たちは，エーッ！？と戸惑いながらも自分を見事に表現していく。「どんな気分ですか？」「好きになったきっかけは？」と次々と質問が飛ぶ。「相手がもっと話したい＝聞いてもらいたい部分にツッコミを入れるといいよ。」とアドバイスをする。すると，話している内容だけではなく，表情や仕草も注意深く観るようになる。「じゃぁ，次は『私の好きな TV 番組』にしようか。」15分もすれば，もうみんな打ち解けている。

「給食を食べるのがいつも遅い子どもがいる。さあ，あなたならどうする？」と日常の学校生活において起こり得る場面を想定して話し合わせる。「嫌いな物は食べなくていいように指導したら。」と一人が言うと，「そうすると他の子どもも残すんじゃない。」と別の一人が疑問を投げかける。「好き嫌いよりも量が多いのかも。」と違った観点から切り込む学生もいる。私は，「そうだね。」と言いながら，「じゃあ，どうしたらいい？」とさらに意地悪く問いかける。彼等の真剣な話し合いで教室は一気にヒートアップしていく。

土曜日の講座はレクレーション活動を通してのコミュニケーション能力の育成。まずは，ジャンケンゲーム。体を動かしたり，勝ち負けを競ったりしながら次第に笑い声が大きくなってくる。学年や学部の異なる学生，さらには初対面の現役の教師もいる中で楽しい時間が過ぎていった。

〔第２回に向けて〕

今年も目が輝いている学生に出会えた。「教師になりたい」という夢を実現させるべく熱いハートを持った彼等とまた接する機会を得たことで，私自身元気が湧いてくるのを日々実感している。がんばろう～。

平成17年度第１回教育実践総合センター研究会報告

去る7月13日（水）16:00より第3会議室で，下記のテーマ・登壇者のもと，約30名の参加者を得て，平成17年度第１回教育実践総合センター研究会が開催されました。

テーマ　：　教職の専門職大学院をめぐって
挨　　拶　　加野芳正先生（教育学部長）
報　　告　　新見　治先生（社会科教育）
指定討論　　川勝　博先生（理科教育）
　　武重雅文先生（発達臨床）
司　　会　　田上　哲（教育実践総合センター）

まず，西原教育実践総合センター長による挨拶に続き，加野教育学部長より挨拶がありました。その中で，専門職大学院の問題は教員養成系大学学部の再編統合の問題よりも困難な問題であるとの認識が示され，専門職大学の設置に関して，早急に設置検討委員会を立ち上げ，慎重にも慎重を期して検討する必要がある旨の発言がありました。

続いて，新見先生より，香川大学教育学部が文科省より委嘱を受けて取り組んだ専門職大学に関する調査研究の成果を中心にした報告がありました。この調査研究は，香川大学の他，宮城教育大学，福井大学地域教育科学部が研究委嘱を受けたものですが，文科省より与えられた枠組みが不明瞭であり困難な作業であったとのことでした。

香川大学の調査研究は，大学院修士課程におけるこれまでの取り組みをふり返り，それをどう発展させるかを機軸にし，教師のライフコースの視点から大学院修士課程における実践的な教員養成カリキュラムの在り方を模索し，たたき台として3つのコース（学部卒業者を対象とする教育実践研究コース，中堅期を迎えた教員を対象とする学校マイスターコース，壮年期を迎える教員を対象とした学校マネジメントコース）を提示したもので，今後の課題として，とくに現行の大学院の評価の問題と，大学院が持つべき機能，役割について視野を広げ，立ち止まってしっかり考える必要があることを示されました。

続いて，川勝先生と武重先生が指定討論者としてコメントを述べました。

川勝先生は，専門職大学院は，教師の専門性を狭い意味でとらえ，部分的な能力等を高めるものというよりも，人間という視点のもとで統合された総合的な専門性を高めるものとなる必要があるという意見を述べられました。また，武重先生は，現在中教審で審議されている専門職大学院は，現職教員の再教育を通して新たな課題に対応する高度の専門性（臨床心理，カリキュラムマネジメント，組織マネジメント）をもったスクールリーダーを育成することを主眼としており，それにどう対応するかという課題が我々に突きつけられているという意見を述べました。

その後の全体討論では，専門職大学の制度設計（少数の学校リーダー・エリート養成のための大学院か，他の一般の先生方についてはどう考えるか）の問題，専門職大学院をつくる内的な必然性の有無（現行大学院が設置された理念に立ち返って改革改善ができれば改めて専門職大学院をつくる必要はないのではないか）の問題，専門職大学院の出口と入り口の問題等，様々な問題や課題について熱心な討議が展開しました。

最後に加野学部長より，専門職大学にどう向き合うかを教育委員会や県センターとも協力して議論していくこと，それと共に現行の大学院教育の改善をすすめ，現行の大学院を専門職に限りなく近づけていくことも視野に入れる必要があるとのお話がありました。

（文責・田上　哲）

寄贈図書（05／03～05／7）

教育実践研究　No.5　信州大学教育学部附属教育実践総合センター
京都教育大学　アニュアルレポート２００４　京都教育大学大学評価室
教育実践研究紀要　第４号　京都教育大学教育学部附属教育実践総合センター
学校教育実践センター紀要　No.19，２００４　鳴門教育大学　学校教育実践センター
教育実践総合センター紀要No3　２００４　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
広島国際大学心理臨床センター紀要　第３号　広島国際大学心理臨床センター
情報処理センターブルティン　第１０号　北海道教育大学
メディア教育研究　特集「高等教育における生涯教育への e-Learning の実践ー新たなる e-Learning の実践ー　NINE
教育実践学論集　第６号　兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科
奈良大学大学院研究年報　第１０号　奈良大学大学院
子ども発達教育研究センター　紀要第１号　お茶の水女子大学　子ども発達教育研究センター
子ども発達教育研究センター　年報第1号　２００３　お茶の水女子大学
実技教育研究　第１９号　兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター
国際シンポジウム２００４報告書高等教育における e-Learning ーその成功の条件-　独立行政法人メディア教育開発センター
NINE International Symposium 2004 e-Learning in Higher Education:Conditions for Success　NINE
中等教育研究紀要第51号　広島大学附属中・高等学校
福井大学教育実践研究　第２９号　福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター
静岡大学教育実践総合センター紀要　Ｎｏ．１１　静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
平成16年度「子どもとのふれあい体験」実施報告書　富山大学教育学部附属教育実践総合センター
教師教育研究　第１号　岐阜大学教育学部
第１回岐阜大学教育学部特色ＧＰフォーラム　岐阜大学教育学部
教育実践研究　第19号　高知大学教育学部附属教育実践総合センター
地域教育推進支援プロジェクト調査研究報告書２００５
高知大学教育学部附属教育実践総合センター地域教育推進支援プロジェクトチーム
三教育機関共同研究における兵庫教育大学主管共同研究「大学教育における『実務家教員』と大学教員の協働（協力授業）の在り方に関する共同研究」研究報告書　兵庫教育大学
教育実践センター紀要　第１２号　琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究　第２２号　熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
平成16年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業実施・研究報告書　熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
富山大学スクラムプラン-学校バリアフリーへの挑戦-　富山大学
平成16年度フレンドシップ事業報告書　子ども理解と実践的指導力の向上を目指した「教育実践ボランティア」に関する実践（９）　琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
学校教育における今日的課題解決の方途-確かな学力を育てるための重要ポイント-
熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
鳴門教育大学実技教育研究　１５　鳴門教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター
北海道教育大学教育実践総合センター紀要第６号　北海道教育大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター研究紀要　第１４号　奈良教育大学教育実践総合センター
教育実践研究　第１３号　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
韓国における人権教育の現状と課題　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
公開講座「人権と教育」　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
教育公開連続講座　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
平成１６年度研究実習報告書　福岡教育大学教育内容・方法改善室福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
FD セミナー「良さの共有」への挑戦-長崎大学 FD 設計の戦略と展開　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
マネージメントから見た教育評価　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践ハンドブック-教育実習の手引き-　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
「臨床的観点からの現代青年論」　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
教員養成大学としての教育のあり方（６）　福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
平成16年度弘前大学教育学部フレンドシップ事業報告書-今、感動を子どもと共に-
弘前大学教育学部
研究員紀要第３号　弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
パイディア　Vol.12　2004　滋賀大学教育学部教育実践総合センター
パイディア　Vol.13　2005　滋賀大学教育学部教育実践総合センター
教育実践総合センター紀要No.4　２００５　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
心理臨床事例研究　創刊号　愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター心理教育相談室
IMETS　No.155　財団法人　才能開発教育研究財団
IMETS　No.156　財団法人　才能開発教育研究財団
学部・附属教育実践研究紀要　第４号　山口大学教育学部
研究紀要　第１９号　山口大学教育学部附属教育実践総合センター
鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要　創刊号２００４年　鳥取大学生涯教育総合センター
「総合的な学習の時間」の年間計画作成等に関する実践研究　実施報告書
総合的な学習の時間調査研究会　代表者　酒井朗
平成１６年度　客員研究員研究報告　上越教育大学学校教育総合研究センター
学校教育総合研究センター年報　第４号　上越教育大学学校教育総合研究センター
心理相談研究紀要　第３号　神戸親和女子大学心理・教育相談室
群馬大学教育実践研究　第２２号　群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター
カリキュラム研究　第14号　日本カリキュラム協会
教員のメンタルヘルス支援にかかわる連携協力事業の報告　岡山大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター紀要　第５巻　岡山大学教育学部附属教育実践総合センター

【センター活動報告（05/01～05/03）】

4月６日（水）第一回専任会議
4月13日（水）第一回ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ実施委員会
第二回専任会議
4月27日（水）第三回専任会議
ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
5月11日（水）ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事前指導
5月13日（金）第一回企画推進委員会
5月26日～27日　附属坂出小学校研究発表会
6月４日～５日　ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事業（五色台）
6月８日（水）ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ実施委員会
6月10日（金）附属高松中学校研究発表会
6月15日（水）第四回専任会議
6月17日（金）第一回編集会議
6月22日～23日　ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事業（屋島）
6月24日（金）第二回編集会議
6月29日（水）第二回企画推進委員会
7月６日（水）第一回管理委員会
第五回専任会議
7月13日（水）センター研究会
7月15日～17日　ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事業（室戸）
7月25日（月）第六回専任会議
7月27日（水）ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ事業シンポジウム

【センターからのお知らせ】

教育実践総合研究第１２号原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第１２号は、１１月３０日（水）原稿受付締切です。以下の投稿要領を参考に、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究投稿要領

１（投稿の要領）
香川大学教育実践総合研究（以下「総合研究」という。）への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

２（投稿の内容）
総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料（研究ノート、研究動向の紹介など）及び本学部附属教育実践総合センターの活動報告などを掲載する。

３（投稿者）
総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議（以下、「編集会議」という。）が特に依頼した者とする。

４（投稿原稿の取り扱い）
投稿された論文等は、編集会議において査読を行い、その取り扱いを次のいずれかに決定する。　（１）採録　（２）条件つき採録　（３）返戻

５（投稿原稿の長さ）
投稿原稿の長さは、刷り上がり１４頁（１頁は２１字×４２行×２段）以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、編集会議の議を経て認めることがある。

６（刷り上がり１頁目の形式）
刷り上がり１頁目は、和・英文のタイトル・著作名・所属（住所を含む。）、和文要旨（200字）びキーワード（５語）を含むものとする。

７（投稿原稿の提出方法）
投稿原稿は、原則としてワープロで作成し、ワープロ打ち出し原稿２部と、テキストデータで登録したフロッピーディスクを編集会議に提出する。

８（投稿原稿の校正）
投稿原稿は完成原稿とし、著者校正は初校のみとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則
本要領は、平成１２年３月６日から施行し、平成１１年４月１日から適用する

公開シンポジウムについて

９月２３日（金）９：３０～１２：００、６１１講義室にて、公開シンポジウム「不登校への対応について」を実施する予定です。奮ってご参加ください。

香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース
No. ２２
発行日：平成１７年８月３日
編集発行：香川大学教育学部附属教育実践総合センター
代表者　　西原　浩
URL http://edu-center. ed. kagawa-u. ac. jp/~j-cen/　E-mail : jcen@ed. kagawa-u. ac. jp
[　〒760-8522　高松市幸町１－１　Tel. 087-832-1683　Fax. 087-832-1689　]